

まつぼっくり



宇城市立三角小学校
学校だより 第61号
文責 校長 西村羊治
令和7年12月12日

学校教育目標 「支え合い・学び合い、多様な達成感を体感し、ふるさとを愛する児童の育成」

全校授業

12日(金)体育館で縦割り班活動につなげるための全校授業を行いました。縦割り班とは、簡単に言うと異学年交流です。1年生～6年生までの全学年が同じ班に所属し、活動と一緒にを行うことです。今回はそうじを縦割り班で行います。縦割り班の効果はと聞かれると、「協力することの大切さを理解し、お互いに思いやりができる」と思えることがあります。上級生の思いやりのある行動ややさしい声かけを通して、下級生が他者との正しい接し方を学ぶことができる。」でしょうか。人は一人で生きていくことはできないと思います。他者との支え合い・学び合い・助け合いがなくてはなりません。



みんなで



立派な司会

私の二女が保育園に通っているときに「手遊び歌」を覚えてきました。「お父さんとお父さんが、かけてきて、曲がり角でぶつかった。」「お前が悪いんだぞ」「お前が悪いんだぞ」と互いに相手を批難します。そして、「そこ～で2人はプンプン」です。次はお母さんです。「お母さんとお母さんが、かけてきて、曲がり角でぶつかった。」「あなたが悪いんでしょ」「あなたが悪いんでしょ」とこれもまた互いに相手を批難します。お兄さんもお姉さんもです。



立派な進行



縦割り班で

最後は赤ちゃんです。「赤ちゃんがよちよち、赤ちゃんがよちよちよち、曲がり角でぶつかった。」この後赤ちゃんはなんと言ったでしょう？ 答えは互いに「ごめんなさいね」「ごめんなさいね」です。そして最後に、「そこ～で2人はニッコニコ」という手遊び歌です。



植田教諭のまとめ

もう20年前に二女に教えてもらった手遊び歌です。それ以来ですから私が30代の時から、職場である学校で子どもたちにこの手遊び歌を教えています。相手が悪い、相手が悪い、相手が悪いでは、絶対に人と人はつながることができません。しかし、自分の非を認めて、心から「ごめんなさい」が言えれば、多くの相手が許してくれると思います。勇気を出して認めること、勇気を出して謝ること、勇気を出して許すこと、とても大切だと思います。

思います。人間誰しも自分を正当化することがあると思います。でも自分の非を認め謝罪することで互いが結びつくことができます。「お前が悪い」ではなく「ごめんなさい」が言える人の方が、どんなにすばらしいかと思います。



1・3・6年生で

今回の縦割り班活動は、どの班も相手のことを思いやった話し合いとそうじができました。今後もすばらしい活動ができるることを期待しています。



話し合い後の2年生